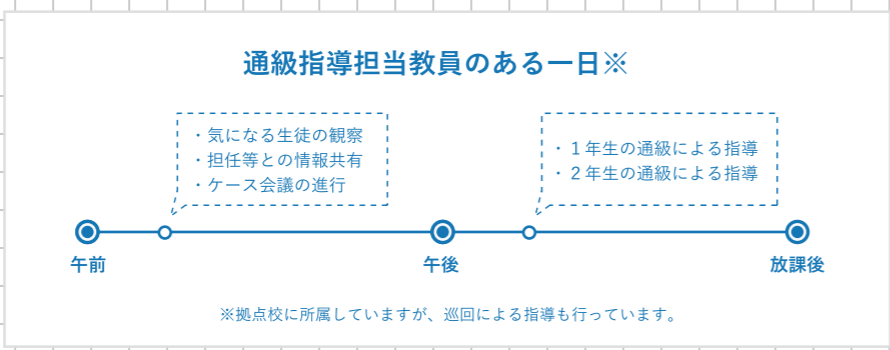


通級による指導は、配慮を必要とする生徒が必要な支援を受けながら学びを広げるための場です。その目的をすべての教職員で共有し、理解することが大切です。

- まずは...「一緒に考える」がキーワード。
- (1) 通級による指導での学びを通常の学級でもいかにするために、指導記録などの情報共有を行っています。
 - (2) 担任が通級による指導を見学すると、生徒の見え方が変わり、より適切な支援につながります。

- こんな風に連携します
- ・通級による指導内容や記録を、担任・教科担当と共有する
 - ・通級指導担当教員が通常の学級の授業を見学し、普段の様子を把握する
 - ・担任・教科担当が通級の授業を見学し、支援のポイントを共有する
 - ・通級指導担当教員・担任・関係者で連絡会等を開き、情報共有と支援方針を検討する



障害の有無にかかわらず学校生活に適応しにくい生徒には、特別な指導・支援が必要です。卒業後を見据えたスキル習得のため、通級による指導を受けることをご検討ください。

● 気になったら、まずはここから

- ・自分が受け持つ生徒に通級による指導が必要な?と思ったら...「高等学校における生徒の実態把握チェックシート」
- ・通級による指導についてもっと詳しく知りたい方は...高等学校におけるはじめての通級指導担当教員のための「安心スタートガイド」

右記の二次元バーコードからアクセスできます。

このリーフレットの問合せ先

0795 (42) 3449

兵庫県立総合教育センター 特別支援教育研修課 〒673-1421 兵庫県加東市山国 2006-107

参考文献

卒業後を見据え、生徒に付けさせたい3つの力 (鳥居, 2020)

- ①アカデミックスキル：自立のために必要な読み書きなどの学力 (教科の補習ではない)
- ②ソーシャルスキル：人とうまく関わっていくための基本的な技能 (例：面接の受け方、報告・連絡・相談 等)
- ③アドボカシースキル：自分の得手不得手を知り (自己理解)、必要な場面でサポートを求めること (援助要請力)

“すべての教職員で支える”
高等学校における通級による指導のためのリーフレット

生徒のことで、 こんなお悩みはありませんか？

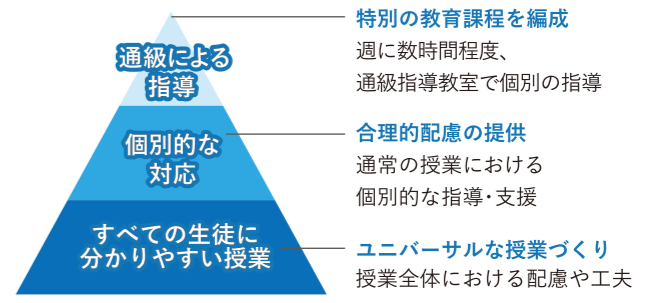
- 人前での発表やグループワークが苦手な生徒がいて**
ずっとアドバイスしているのですが...なかなかうまくいきません。
- 英単語を覚えることができない生徒がいて...**
ずっと英単語を繰り返し書いて頑張っているのですが...なかなか覚えられません。
- よく友だちとトラブルになる生徒がいて**
ずっと相談にのっているのですが...なかなか改善が見られません。
- 課題提出が滞っている生徒がいます**
ずっと提出するよう声をかけているのですが...なかなか改善が見られません。

／ 当てはまるなら、生徒が「なりたい自分」に近づくために／

通級指導担当教員が 生徒の学校生活を一緒にサポート。

CHECK ▶ 通級による指導とは？

通常の学級に在籍し、授業を受けながら、週に数時間程度、特別な指導の場(通級指導教室)で障害の状態等に応じた指導を受ける指導形態です。障害による特別な指導を、高等学校の教育課程に加え、又は、その一部に替えることができます。(特別な教育課程を編成します。)



通級による指導の事例

Case 01 課題の提出を忘れがちだった生徒 A がスケジュールの管理ができるようになった例

指導前

生徒 A は、期限までに課題を提出できないことが多かったため、担任・教科担当とも困っていた。

指導後

自分でスケジュール管理ができるようになり、課題の提出を忘れなくなった。さらに、友だちとの約束も守れるようになり、トラブルが減ったことで自分に自信ができてきた。

通級による指導内容

- ①スケジュール管理の方法を生徒 A と一緒に考える。
- ②生徒 A はスマートフォンのアプリを使ってスケジュールを管理する方法を身に付ける。

Case 02 英単語を覚えることが苦手な生徒 B が、自分にあった学習方法を見つけられた例

指導前

生徒 B は、英単語を覚えることが苦手で、教科担当が教え方の工夫や手立てを探していた。

指導後

自分に合った学習方法を身に付けて英単語を少しずつ覚えることができるようになった。

通級による指導内容

- ①どうすれば英単語を覚えられるのかを生徒 B と一緒に考える。
- ②生徒 B は、絵や写真を見れば言葉を結びつけることができるため、タブレット端末で絵や写真を見ながら英単語の学習を行う。

Case 03 人と関わることを避けていた生徒 C が、コミュニケーションをとることができるようになった例

指導前

生徒 C は、他者の表情を読み取り、相手の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しく、孤立傾向だったため、担任が心配していた。

指導後

相手の表情を見ながらのコミュニケーションを意識するようになり、クラスでも友だちと会話が増え、表情が明るくなった。

通級による指導内容

- ①どうすればうまく人と関わるかができるかを生徒 C と一緒に考える。
- ②人の表情カードや写真から相手の表情を読み取るワークをする。
- ③他者とのコミュニケーションに関するロールプレイをする。

VOICE

通級による指導での学びについてのコメントをご紹介します！

保護者の声

ストレスへの対処ができるようになったようです。



心のケアやストレス発散方法を学び、困難を感じたときのトレーニングを行ったと聞いています。集団でのときの過敏さによる疲れを自分のパルメーターで捉え、ストレスへの対処ができるようになったようです。

生徒の声

自分の求めている援助を他者に求められるようになりました。



これまで困った時に「助けしてほしい」と言えなかったけれど、「自分だけではできないから一緒にやってほしい」と伝えられるようになりました。

担任の声

生徒のできることが増えた瞬間に立ち会える喜び。



通級による指導では、担任や教科担当だけでは対応が難しい課題にも専門的な支援が受けられます。生徒のできることが増えた瞬間に立ち会えることが嬉しく、通級指導担当教員は支援を共に考える心強い存在です。

通級指導担当教員と一緒に考えましょう！

通級による指導 3つのポイント

POINT 01

通級による指導を受けるかどうかの最終的な判断は生徒本人の希望が最優先

高等学校においては、障害の有無が明らかでない生徒も対象として考えられます。生徒・保護者のニーズも含め関係者による合意形成を図るための総合的な判断を組織的に行える仕組みが必要です。最終的な判断に当たっては、生徒の希望が最優先であり、心理的負担感などへの配慮も重要です。

POINT 02

指導に当たっては、個別の指導計画を作成して、通級による指導を行います。

個別の指導計画は、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものです。通級による指導では、自己理解やコミュニケーションなどの力を育てます。目標は生徒と共に設定し、保護者とも連携して実態やニーズに応じて計画的に指導を進めます。

POINT 03

通級による指導は「自立活動」として単位の認定が可能です。

個別の指導計画に従って通級による指導を履修し、その成果が個別に設定された目標からみて満足できると認められる場合には、当該高等学校の単位を修得したことを認定することになっています。通級による指導は「自立活動」として単位認定されます。

▶ 通級による指導を生徒が受けるメリットとは？

✓ 自己理解の学習を通して他者理解に繋がります。

生徒自身が得意なことや苦手なことを整理して自己理解を深めます。自分の特性を知ることによって他者との違いも理解し、互いを尊重する姿勢が育ちます。

✓ 自分に合った学習方法を知ることで、勉強することが楽しくなります。

自分の考え方や理解の仕方に気付き、自分に合った学び方を選べるようになることで、理解しやすくなり学習することが楽しくなります。

✓ ソーシャルスキルを身に付けることで、対人関係をスムーズにします。

コミュニケーションや対人関係で困難な場面を想定し、スムーズに生活を送ることができる話し方や行動の仕方等のスキルを身に付ける練習をします。

✓ 課題の提出等が困難な原因を分析し、提出できるように支援します。

「期日までに余裕を持って課題に取り組むにはどうすればよいか」等、通級指導担当教員と一緒に分析し、提出期限を細かく設定したり、チェック表を活用したりする等のスモールステップで支援し、段階的に提出までつなげます。



記憶の方法を確認している



期日までに提出できる方法を考えている